

3 ウェルネスパークエリア



小川放水路



平成6年9月23日 集中豪雨による被害状況

田名部川の右支川にあたる小川は、洪水のたびに氾濫を繰り返しむつ市街地に大きな被害を与えていた(右写真)ため、小川の上流域8.6km²の流出を栗山町地内から金谷川に切り換える放水路を建設することになった。(放水路ルート上に台地があるため、この区域はトンネル河川となった。)



放水路が完成したことで、小川からの流出量のうち95m³/sが金谷川へパイパスされ、小川下流部の流出は、放水路下流域からの20m³/s程度の流出のみとなり、この結果、概ね50年に1回程度発生すると予想される洪水に対応できるまで治水安全度は向上した。



小川放水路トンネル工事の概要

工事名	田名部川広域基幹河川改修工事
発注者	青森県むつ県土整備事務所
工事場所	青森県むつ市大字金谷地内
工期	平成14年12月17日～平成18年3月20日
延長	(全長)675m (NATM区間延長)480m
掘削断面積	56.1～60.2m ²
掘削工法	NATM上半先掘工法・機械掘削
ずり出し方式	タイヤ方式

11 ウェルネスパーク



ウェルネスパークは、しもきた克雪ドーム(108m×108m)とセンターハウス及びそれを結ぶ中庭がある。センターハウスにはトレーニングルーム、スタジオ、プールなど、多彩な施設・設備があり、豊富なプログラムに参加することができる。克雪ドームは、野球・サッカー・テニスなどのスポーツ利用をはじめ、一周約400mのウォーキングコースがある。

国道338号線からの出入り口が2ヶ所しかないので注意。



4矢立エリア



ここから
矢立温泉までは
800m弱、約10分。

12 むつ運動公園

野球場、陸上競技場、テニスコート、スポーツ広場などを有する総合運動場。
野球場の一塁側に釜臥山を望むことができる。また、小さな道路や標識など、実物さながらの道路環境が設けられている交通広場、遊園地もある。春には公園内や外縁の桜が咲き、花見スポットとなっている。

- スポーツ施設の利用時間
午前9時から午後9時まで
- 開設期間
4月1日より11月30日まで



13 墓地公園



12 矢立温泉 むつから恐山に至る途中にある、自然に囲まれた山あいの温泉。キャンプ場やレジャー施設が整っており、家族連れでも楽しめる。



5 新田名部川エリア



金谷橋



赤坂橋



太田橋



内田橋



女部川



赤坂橋たもと



新田名部川遊歩道



分岐点

6 早掛沼エリア



15 早掛沼公園

早掛沼公園は、野外ステージや噴水等が整備された多目的公園。桜の名所として知られ、16種類約380本の桜や、500株のチューリップ、400株のつつじが訪れた人を楽しませている。また、珍しい緑色の桜「御衣黄(ぎょいこう)」(5月中旬~下旬)も見どころの一つとなっている。



14 宮後ふれあい牧場



約2.2km

約1.0km

正一位稻荷神社

みやしろ

あいの里有料老人ホーム

早掛レイクサイドヒル
キャンプ場

早掛沼公園

東通村

むつ中学校

法呂神社

機橋本建設工業

栗山稲荷神社

マツバステーション
むつSS

焼肉レストラン 心亭

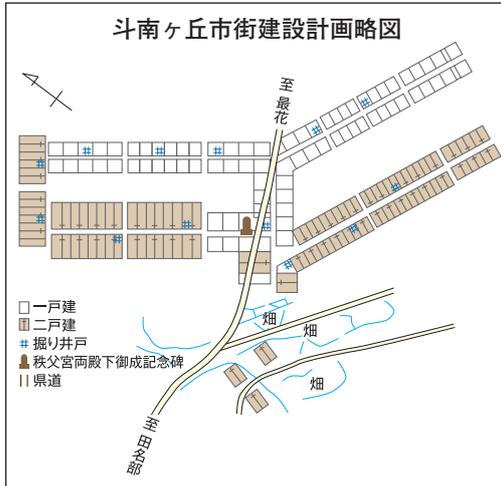
ツルバドラッグ

むつ南バイパス(建設中)

斗南藩(となみはん)史跡地



戊辰戦争の敗北によって移住してきた旧会津藩士たちが、この新天地斗南で整備した斗南ヶ丘市街地の一角。昭和11年10月の秩父宮両殿下の下北御巡遊の際、この地を訪れたことを記念し、昭和18年7月、記念碑を建立。付近には斗南藩士移住当時の井戸や土堀跡などがある。



斗南ヶ丘市街地建設計画
斗南藩は、田名部川の流域に開けた平野をはさみ田名部の町に相對した妙見平と呼ばれる丘陵地帯を「斗南ヶ丘」と名付け、市街地を建設した。
一戸建約30棟、二戸建約80棟からなり、東西に大門を建築して門内の乗打ち(馬や駕籠などに乗ったまま通ること)を禁止し、18ヶ所の掘井戸を作り、一番町から六番町までの大通りによって屋敷割りして、1屋敷を百坪単位として土堀を巡らせて区画した。



斗南藩の軌跡

会津若松の鶴ヶ城が落城、会津藩が降伏したのは明治元年9月、東京で謹慎中だった藩主松平容保(かたもり)は死罪を免れ、かつて京都守護職として朝廷に力を尽くしたのをおかげで、明治2年11月、嗣子容大(かたはる)を立て、それまでの二十八万石から三万石に格下げして二戸・三戸・北の三都を与えられ立藩を許された。
翌3年4月18日、三戸御役所において黒羽藩から引き継ぎを受け、藩庁を五戸町に置き斗南藩と称した*。
同年5月、斗南藩先鋒隊が田名部に到着、翌明治4年2月には、藩庁が五戸から田名部に移り、三歳の容大がはいり円通寺を仮館とした。このころから旧会津藩士の北上が続々と始まった。蒸気船で海路を向かった者は、大平(おおだいら)や野辺地、八戸などに入港し、そこから入植地の村へと移っていった。一方陸路で移転した者たちは悲惨な旅路であったという。目的地に着く前に命を落とした者も少なくなかった。
どれだけの旧会津藩士が下北に移住してきたのかははっきりとはわかっていないが、陸奥の新領地に移住した戸数は、一

説に4,300戸・17,000余人といわれている。このうちむつ市に移住したのは、田名部に400余戸・1900人余、安渡(あんど)・大平140戸・630人余。そして斗南ヶ丘に200戸、松ヶ丘に20戸と伝えられている。
当時田名部の戸数は600戸、人口3,000人と推定してこれを比較すると、もともとの人口の六割が七割の移住者が加わったことになる。



新天地に移住した藩士たちは、多くの苦難に遭遇したが、会津が受けた辱めをすくまで生き抜いて奮闘し、斗南ヶ丘と松ヶ丘に町の建設をはじめとして歯を食いしばって農地開墾に従事した。また、安渡湊を奥羽の長崎にしようとして大湊と地名を改めて町の発展を図ったり、円通寺に斗南藩校日新館を開校したほか領内各地に分校にあたる郷学校を開校した。
このように斗南藩は、貿易と農業振産によって藩財政の基盤を固めようとしたものの、明治4年7月14日の廃藩置県のために中止となり、会津人の多くは会津や東京など全国各地に移っていった。
*「斗南藩」藩名の由来……中国の詩文「北斗以南皆帝州」からとったものといわれている。意味については諸説あり、北海道以南はことごとく天子の領土であるから北へ移されても天領から追放されたのではないという意味からという説、「斗南」とはいつか南へ帰るという意味であり、薩長政府に対する反骨の心が含まれているという説がある。
参考文献 『むつ市史』 田中誠一著
『下北半島の歴史と民俗』
下北半島の歴史と文化を語る会編著

坂の町 大湊

大湊地区は、海岸の低地から内陸部に向かってゆるい傾斜になっており、海岸沿いに走る道路と国道338号の2本を結ぶ坂道にそれぞれ名前がついている。

浜町坂から宇田坂まで3km弱、途中、寺院や神社、大湊小学校、一本杉などもあり、2本の道路をつなぎながら散歩するのが人気。

湧水(🌿)を見つけてのどを潤しながら散歩を楽しむ人も多い。



①船見坂



②一番坂



③ロマンス坂 その昔、坂の突き当たり「ロマンス座」という映画館があった。



④川守坂



⑤新川守坂



⑥丹内坂



⑦宇田坂



宇田坂海岸部から間近に見ることができる



16 順法寺城跡

築城年代は定かではないが、宝治年間(1247~1249年)に、宇曾利郷(岩手から北の糠部五郡の一つ、下北半島のこと)の領主安東盛親によって築かれたと言われる。後醍醐天皇の孫の良王尹(ながたおおう)が、南朝方の南部氏に庇護され居城とし、北部王家(きたのべのおうけ)として約100年栄えたといわれる。

1448年蠣崎城城主蠣崎蔵人は十三湊の安東氏とともに南部氏を攻撃し一時は七戸城を陥れるが、大軍を擁する南部氏に平定される。蠣崎蔵人は蝦夷が島へ逃げ、松前氏の始祖となったともいわれる。順法寺城もこの乱で廃城となった。



旧城ヶ沢小学校



清澤寺



城ヶ沢ねぶた会館



8 大湊海沿いエリア

22 常楽寺

釜臥山を目の前にする常楽寺は、従前はむつ市田名部字念仏車に建立されていた。応永3年(1396)4月紀州根来山の所化、良海が草創したといわれ、旧南部藩領に属する田名部代官所の館に勧請せる八幡宮の別当所あるいは折衝寺として、南部藩の加護を得た寺院だった。明治の初めに現むつ市大湊へ移転、真言宗の釈迦山神宮寺に合併され八峰山常楽寺と改めた。

円空作の如来像があり、県重宝の指定を受けている。



23 大湊小学校

明治7年2月1日、大湊村常楽寺を仮校舎として創立。児童は男子84名、女子4名、教員男子2名で発足した。明治31年、大湊上町43番32号の現在地に校舎を新築したが、昭和33年1月1日に校舎が全焼。翌34年7月、全国でも珍しい円形鉄筋3階建の新校舎が落成した。その円形校舎も老朽化がすすみ、平成10年に解体されて現在の校舎が建った。

校地の護岸に立っている一本杉は樹齢およそ250年といわれ、大湊のシンボルとして親しまれている。



24 稲荷神社(川守)

寛政3年(1792)川守村氏子の再建と伝えられる。明治維新前は稲荷大明神と称えられ、明治8年2月28日に稲荷神社と改号し村社となる。毎年9月の例祭には神楽の先導のもと、献幣使参進し畜行、神楽が奉納され船山車が町内を運行し賑わう。



25 兵主神社

延宝7年(1679)の再建とされている。祭神は伊弉諾命。釜臥山下居兵主大明神ともいう。伝説によると、貞観年中(859~877)、慈覚大師巡錫してこの地に至り、釜臥山に上ったときに鴉が釜臥山を越えて北方に去るのを見て、行く手に必ず平地があり、霊場にふさわしい場所があると思い山上に座禅すること二十日にして、釈迦如来、薬師如来の像を刻み、山上に安置、そして遂に恐山を開くことができたという。後に正一位釜臥山嶽大明神と号し、恐山の奥院と称した。修験田名部大覚院で司り、その後の変遷があって、明治2年の神仏混淆の命により兵主神社と改め、大湊の鎮守となった。

ここは釜臥山の表参道に位置し、登山参拝者が誤をするならわしであった。正津川(大畑町)にある光主神社が裏参道の下氏宮にあたる。神社が所蔵する奉納船絵馬は、むつ市の指定文化財になっている。旧村社。



大湊のシンボルー本杉

大湊小学校の海沿いの壁にはねぶた絵などのレリーフがある。



9へ続く

7からの続き

7大湊駅エリア



26 大平神明宮

元和元年(1615)氏子の歓請にして鎮座。明治維新前は神明社と称え、氏子・崇敬者に信仰された。明治8年2月28日に神明宮と改号し村社に、明治40年4月19日、神饌幣帛料供進指定神社となる。祭典後神楽の奉納、船山車が町内を運行する。境内には夜店が並び賑わう。



27 斗南藩士上陸の地

明治3年6月10日、新潟から海路をたどって藩士達が上陸した地のひとつがここ。石碑は平成2年、会津鶴ヶ城の石垣に使用されている慶山石を用い、会津若松市を望む方向に設置された。碑文の揮ごうは会津松平家第13代当主松平保定氏によるもの。



28 近川稲荷神社 金刀比羅神社

祭神は倉稻魂命と大物主命。明治時代、両者とも廃社となったが、ほどなく元に戻り同じところに祀られた。金刀比羅神社には船絵馬が所蔵されてある。



大湊湧水群

大湊地区は後ろに釜臥山を控えて豊富な水を蓄えており、海沿いの道にはいたるところに湧水がある。誰でも気軽に飲めるようにコップが用意されて名前もついているところもあるので、坂の散策とあわせて湧水を探しながら歩く人も多い。名前のついている場所は8ヶ所。

- ① 濁瀧水
- ② 三山水
- ③ 稲荷神社清水
- ④ 安渡の湧水
- ⑤ 和(なごみ)の水
- ⑥ 和戸野水
- ⑦ 籠の湧水
- ⑧ 釜臥の恵み



釜臥山を間近に仰ぎ見ることができる

